

令和7年度 第1回今治市民提言会議 会議録

- 1 日 時 令和7年6月2日（月）午後3時00分～午後4時10分
- 2 会 場 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3号
- 3 内 容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 今治市中心市街地グランドデザイン
 - ①グランドデザインが示す将来像とエリア再編の方針について
 - ②計画の周知や機運醸成に向けて取り組むべき事項について
 - 3 閉会
- 4 出席者 <今治市民提言会議 委員>
井上 衣美 小笠原 孝子 越智 人史 原田 瑞紀
廣川 怜史 森 譲寛（会長）八木 伸樹（副会長）
<議事担当課>
（魅力都市創生課）佐々木課長
<事務局>
（市民が真ん中課）中田課長、渡邊課長補佐、松田係長、上甲主査

日 時 令和7年6月2日（木）15:00～16:10

場 所 今治市役所第2別館11階 特別会議室3号

※議事内容1および3については省略

	議事2 議題「今治市中心市街地グランドデザイン」
佐々木	（都市政策の方向性、グランドデザイン作成の流れ、各エリアのコンセプト、実現に向けたロードマップなどについて説明）
委員	それぞれのエリアにおけるターゲットは。
佐々木	住民が生き活きと活動するまちは、観光客にとっても魅力的であるとの考えから、ターゲットは絞り込んでいない。
委員	この資料は現在誰でも見ることができるのか。
佐々木	答申を行い、今治市のホームページ上に公開されている。
委員	参考にしている自治体はあるのか。
佐々木	西宮市や仙台市など部分的に参考にした。
	（グランドデザインが示す将来像とエリア再編の方針についての意見）
委員	「つながるみなと・まち・いまばり」というテーマだが、実質的な港としての機能として、交通機能の再編と合わせ、レジャーや観光資源として「港を港として使う」ことを検討してほしい。
委員	対象範囲が1km四方と広いため、エリアごとの優先順位付けし、実現可能性の高いところから少しずつかたちにしていくべきである。
委員	市街地外から来る人が車を置いて歩ける駐車場の確保が重要になる。
委員	市民の動線を考えれば、行政サービスと買い物の回遊性は密接であり、相乗効果を生む地域のため、シビックゾーンと広小路のつながりをより具体的に示してほしい。
委員	民有地である芝っち広場を活用する計画だが、活用条件をPRしていくのも必要ではないか。
委員	イベント時の賑わいだけでなく、平日にどう人を呼び込むのかがイメージできなかった。日常的な使い方とイベント時の使い方の両面をより具体的に示してほしい。
委員	エリアが広いため、どこからどこまでなら楽しく歩ける距離なのか、また自転車などの移動手段とどう組み合わせるのか考える必要がある。
委員	30年、50年先を見据え、人口が減少していく中で、広い範囲に居住地が分散すると全体が不便になる。中心部に機能を集約し、皆が暮らしやすい場所を作るというコンパクトシティの目線で考えると理にかなっている。
委員	自転車道やモビリティといったキーワードとつないで、しまなみ海

	道のサイクリストを今治市街地にまで引き込むことができれば、計画がより充実する。
委員	民間投資を促すためには、どのような事業者に、どのような投資をしてほしいのかというストーリーを各エリアで設定してはどうか。
	(計画の周知や機運醸成に向けて取り組むべき事項についての意見)
委員	まちづくりを進めたい外部の人間と、そこで実際に生活・営業している住民との間で、熱量やニーズの擦り合わせを行うことが重要。今のすがたのまま残したいという住民の意思を優先すべきケースもあり得る。
委員	働きながら子育てをするミドルエイジ世代が、手弁当にならずにまちづくりに参加できる仕組みが必要。例えば、「今治あきない商社」のような官の業務を民間が実施する組織を設立し、活動者にお金が回る持続可能なモデルをまちづくりにも反映できないか。
委員	これは長期計画なので、まずは実現可能性の高いものから着手し、小さな成功事例を作ることが重要。小さな成功を基に、応援団を増やしていくのが現実的である。
委員	ラボストリート構想にあるベンチャーの誘致にあたっては、税の優遇措置など、行政が実施可能なサポートを組み込まれたい。
委員	子どもが学校や園から持ち帰るプリント類は、親世代への告知に非常に効果的である。地元企業から応援を募ることも検討してほしい。
委員	専門用語を住民目線の平易な言葉に置き換え、どのような使い方ができるか具体的に提示していけば、周知や機運醸成が進み、自分ごととして良くしようとする動きにつながるのではないかな。
委員	まちが変わることへの不安を払拭し、より良い方向に進むと感じることのできる見せ方へ工夫してほしい。
委員	仕事と関連付けられるようなかたちで参加を促し、横の繋がりを活用するなど、アプローチを工夫する必要がある。仕事など自分の得意分野を活かしてまちづくりに参加できる仕組みがあれば、市民の想いが詰まったまちになると思われる。
委員	中心市街地の活性化を考えた時、シンボルとして思い浮かべる商店街について、権利を整理した大規模な再編を行い、現状の雰囲気を更新しなければ、それぞれの計画が見えてこないと思われる。商店街の住民を含め誰もがメリットを感じられる内容で周知を進めてほしい。
委員	いきなり全体像を市民に見せるのではなく、各エリアにおける地域住民のみに公開し、それぞれの住民が「自分たちの周りが良くなっている」と実感できた段階で、実はこれが大きな計画の一部だったと示す方が、結果的に実現可能性が高まるのではないかな。

委員	現段階で全体像を示すのが、期待感の醸成のほか、よいまちづくりを予感してもらうために適当だと思われる。
中田	このイラストは、中心市街地のポテンシャルを最大限に活かせば「ここまでできる」という可能性を示したイメージであり、行政として全くこのとおり進めると決めたものではない。この全体像をたたき台として、どこから着手すべきか、皆様の意見を伺いながら進めていきたい。